

## 平成23年度 事業状況報告書

財団法人 地球システム総合研究所

地球システム科学は限りある地球を有効に利用して人類の持続的発展を達成させるために必要不可欠な学問分野である。従って関連科学技術の推進は各方面から強く要請されており、喫緊に解決せねばならない課題も多い。

当研究所は、関連科学技術のうち、特に、資源・エネルギー開発、社会基盤整備、地下水、防災、環境保全などの分野に重点をおき、研究開発と研究成果の実際への有効利用を速やかに推進するために、以下の公益的3事業、すなわち；

- 1) 当研究所独自の課題について研究開発を行い、その成果を公表して科学技術の発展に寄与する自主研究事業
- 2) 学会や産業界からの要請に応じて関連科学技術に関する課題の研究開発及び技術開発・学術調査を行う研究等受託事業
- 3) 研究成果の啓蒙・普及および技術者・研究者の育成のために、研究会、講演会、セミナー、講習会等を開催する研究会等開催事業

を過去10年間以上に亘り積極的に実施し、多くの有益な成果を挙げ、我が国の科学技術の発展に貢献してきた。

平成23年度には、公益的研究活動の範囲を更に広げるために、新たに「不連続性岩盤解析実用化研究会」が新設され、より広範囲の公益的活動が展開され、地球システム工学の基幹分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する基礎的及び応用的研究が活発に行なわれ、多くの有益な成果が得られた。これらの研究成果等を踏まえ、地球システム工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、特別講演会を1回、研究会を3回主催すると共に、平成23年8月29～31日にタイ国バンコック市で開催された「EIT-JSCE Joint International Symposium on Geotechnical Infrastructure Assent Management 2011」、及び、平成23年11月24～25日に京都市の京都大学楽友会館で開催された「The 15th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics」を後援及び共催した。また、当財団法人のホームページを刷新(<http://www.geosystem-research.com/>)し、その充実を通して関連科学技術の啓蒙普及に尽力した。

一方、当財団法人の新制度への移行に関しては、平成23年10月11日に内閣府へ当財団法人の一般財団法人への移行認可申請書を提出し、審査の結果、平成24年3月19日付で内閣総理大臣野田佳彦殿から当財団法人を一般財団法人として認可する認可書が交付された。これを受けて、平成24年4月1日に京都地方法務局に移行による一般財団法人設立登記を行った。従って、平成24年4月1日より、当財団法人は一般財団法人地球システム総合研究所として発足し、新定款で運営することになった。

以下に平成23年度の活動状況を示す。

### [1] 理事会、評議員会、最初の評議員選定委員会

「平成23年度 第1回定例理事会」

平成23年6月28日、16:00～17:30、 京都大学楽友会館 2階 会議室(3)

出席理事：5名(全員)、 出席監事：2名(全員)、 出席顧問：1名

「評議員選定委員会」

平成23年7月20日、15:30～17:00、 京都大学楽友会館 2階 会議室(3)

出席委員：5名（全員）、 陪席理事：1名（青木理事長）  
「平成23年度 定例評議員会」

平成24年2月21日、15：30～17：00、 京都大学楽友会館 2階 会議室（1）

出席評議員：16名（全員）、出席理事：1名、 出席監事：1名、 出席顧問：1名  
「平成23年度 第2回定例理事会」

平成23年3月6日、16：30～18：00、京都大学楽友会館 2階 会議室（1）

出席理事：7名（全員）、 出席監事：1名、 出席顧問：1名

## [2] 部門研究会活動

現在、当財団法人内には次に示す10部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究会が公益的な自主研究活動及び受託研究活動を活発に実施するとともに講演会および研究会を開催した。

- 1) 地球統計学研究会            2) 岩盤工学研究会            3) 写真計測研究会、
- 4) 京都地盤研究会            5) 岩盤水理研究会            6) ジオリスク研究会、
- 7) 東南アジア岩盤研究会    8) 地下可視化研究会            9) 地下水工学研究会、
- 10) 不連続性岩盤解析実用化研究会

## [3] 事業

### 1) 調査受託

調査受託は無かった。

### 2) 研究受託

下記の9件の研究を受託し、活発な自主的及び公益的研究を実施した。以下に受託研究件名を示す。

- ① 結晶質岩における熱-水-応力連成モデルの開発研究（その4）
- ② 地下空間の高度利用技術に関する研究指導（平成23年度）
- ③ 走行型トンネル計測車両の欧州における活用及び仕様（精度）検討
- ④ グランドアンカーの損傷程度に対応した斜面安定の定量的評価手法の検討
- ⑤ グランドアンカーの損傷程度に対応した斜面安定の定量的評価手法の検討
- ⑥ 各種岩盤でのグラウティングシステムの研究
- ⑦ 国道9号額田地区他地質調査業務
- ⑧ 岩盤地下空洞における気密性・液密性に関する研究指導
- ⑨ 高レベル廃棄物への適応性の研究

### 3) 研究会・講演会・講習会

#### 1. 主催

今年度は部門研究会が中心となる下記の講演会及び研究会を合計4回開催した。以下に開催日順にその内容を示す。

#### ① 京都地盤研究会 第16回 特別講演会

日時：平成23年5月11日（水） 15：00～17：00、 場所：京都大学楽友会館 2階講堂

参加者：94名

「東京スカイツリーをつくる ～ときをつくる ころでつくる～」

- ・ 計画概要と施工技術の紹介 大林組大阪本店 建築事業部生産技術部 副課長 松田俊幸
- ・ 基礎工事の秘密 大林組本社 建築本部特殊工法部 課長 須藤敏己

② 京都地盤研究会 第46回研究会

日時：平成23年8月3日（水）13：30～17：00、 場所：京都大学楽友会館 2階講堂

参加者：108名

「東日本大震災の被災直後の状況と近畿地方整備局の対応」

国土交通省近畿地方整備局 企画部技術調整管理官 山本 剛

「東日本大震災における液状化被害の状況と課題」 東京電気大学工学部 教授 安田 進

「阪神高速大和川線工事の技術の課題と特徴」 阪神高速道路（株）堺建設部 部長 大西俊之

阪神高速道路（株）同設計課 課長代理 小林 寛

③ 京都地盤研究会 第47回研究会

日時：平成23年11月2日（水）13：30～17：00、 場所：京都府農協会館 6階 602号室

参加者：84名

「東日本大震災における斜面、造成宅地の被害」 京都大学防災研究所 教授 釜井俊孝

「旧版地形図・新旧空中写真等の活用」(株)アーステック東洋地質部 課長代理 福塚健次郎

「第2外環状道路工事の進捗」

国土交通省京都国道事務所 所長 小林賢太郎

④ 京都地盤研究会 第48回研究会

日時：平成24年2月10日（金）13：30～17：00、 場所：京都大学楽友会館 2階講堂

参加者：96名

「台風12号による和歌山県内の被害状況と今後の課題」

和歌山大学システム工学部環境システム学科 准教授 江種伸之

「これからの企業のトップにふさわしい人材をいかに育てるか」

南富士株式会社 代表取締役社長 杉山定久

「台風12号による被害の概要」

国土交通省近畿地方整備局 企画部長 大塚俊介

2. 共催

① The 14th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics

開催日：平成23年11月24日～25日

3. 協賛

なし。

4. 後援

① EIT-JSCE Joint International Symposium on Geotechnical Infrastructure Asset Management 2011

開催日：平成23年8月29日～31日

以上のように本年度も公益的な自主研究及び受託研究を実施するとともに、講演会及び研究会を開催して、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・資源エネルギー工学に関する研究および啓発・普及活動を積極的に行ない、関連する科学技術の発展に寄与するとともに有意義な多くの研究成果が得られた。

[4] 活動収支決算

平成23年度の収支決算は別紙「平成23年度収支計算書及び財務諸表」のとおりである。

以上